

岸田清実

議
会
報
告

2017
7.30

岸田清実県政事務所
仙台市太白区長町1-7-9-401
TEL 248-8888 FAX 248-8633



大震災復旧工事現場の視察先で

6月定例県議会報告

6月定例県議会は6月16日召集され、7月6日までの21日間開かれました。今回の県議会には26億円余の補正予算、過疎地域における県税の課税免除に関する条例の一部を改正する条例(期間の延長)等条例議案13件、災害復旧工事請負工事契約等条例外議案20件などが提案されました。

本会議での一般質問は26日から4日間行われ16人が登壇しました。秋の知事選挙を控え、一般質問のはじめで知事の所信を問う質問が出され、それに答える形で村井知事が四選出馬を明

いじめ、自死問題で 本会議の質問相次ぐ

言しました。一方で多選の弊害についての指摘や仙台市長選挙の予定候補をめぐって知事がいち早く支援表明したことへの批判が自民党県議からだされました。また仙台市で2年7ヶ月の間に3人の中学生がいじめを原因として自殺したことから質問者のうち6人がいじめや自死問題を取り上げ、県教育委員会の体制と取り組みの強化を求める発言が相次ぎました。この他に仙台港での石炭火力発電所稼働問題、慶長使節船復元船サン・ファン号の存続問題、福祉施策の充実などが取り上げられました。

提案された議案は予算特別委員会、常任委員会の審議を経て全議案が本会議で可決されました。

意見書では社民党県議団から「B型・C型肝炎ウイルスによる肝硬変・肝がん患者の医療費の負担軽減を求める意見書」案を会派間協議に提案し、最終日の本会議で採択されました。

被災者支援で申請期間延長(再場)

住宅の全壊、大規模半壊に基礎支援金(50～100万円)、加算支援金(50～200万円)を支給する「生活再建支援金」制度の申請期間が延長され、どちらも2018年4月10日までとなりました。半壊でも条件を満たせば解体した場合に支給されます。詳しくは岸田事務所まで

建設企業委員会

談合疑惑で県の 姿勢ただす

6月県議会の中で建設企業委員会が行われ、今年の台風による石巻港の離岸堤被害の災害復旧工事に係る契約案件など5議案が県側から提案され、審議の後全会一致で可決されました。

議案審査後、土木部長から地元紙で報道された県北部土木事務所発注案件の談合疑惑に関する報告がありました。これは昨年12月に実施された測量業務の指名競争入札に係るもので、入札後に参加業者から実名入りで談合情報が寄せられていました。県は入札4件を対象に入札参加業者全員から聞き取り調査を行い、談合の事実を確認できなかったことから誓約書を取って4件とも有効としました。この問題が地元紙で6月29日「談合疑いの入札結果非公表」、30日「宮城県談合情報放置か」、7月4日「談合申告業者に翻意要請?」と連続して報道されました。私は談合情報マニュアルを取り上げ「より厳しく対応すべきだったのではないかと質問し、部長は「マニュアルの運用について再検討したい」と答えました。さらに「失念での非公表、談合申告業者へも『談合は無かった』との誓約書を持参した配慮不足がそれぞれ事実という前提に立っても、いくつもの事実が連続すれば『裏に何かあるのでは』という疑念が生まれる」と指摘しました。



岸田委員

防災豆知識

日ごろの対策

家族があわてず行動できるようふだんから次のことを準備しましょう。①家の中のどこが一番安全か②救急医薬品や非常持ち出し袋の点検③家族が集まる最寄りの「指定避難所」の確認



岸田清実のあしあと

押ボタン信号の要望



西多賀1丁目を通る都市計画道路長町八木山線の横断歩道に押ボタン式信号を設置してほしいとの要望を受け、4月26日に現地を確認しました。道路の幅員は片側2車線と広く、高齢者が横断歩道を渡り切るには時間がかかると感じられ、県警に要望しました。

病院機能移管で検討会



県立循環器呼吸器病センター(栗原市)の栗原中央病院への結核病棟等の機能移管について働く側の立場から現状と課題を突き合わせる会議が7月13日に行われました。センター及び栗原中央病院の労組役員、自治労宮城県本部、そして私と栗原市選出の熊谷県議が参加しました。

栄養士連盟の要望



介護保険制度でかなめの役割をする地域包括支援センターに栄養士を配置してほしいとの要望をもとに6月1日に県長寿社会推進課と県栄養士連盟の話し合いの場を作りました。適切なバランスの食事が高齢者には重要である点は県も理解し、今後情報交換しながら何からできるか検討していくことになりました。

特別委員会 熊本大学等県外調査



私が委員長を務める地域防災調査特別委員会は5月22~24日に熊本県、長崎県、東京都の各施設を訪問して直下型地震、火山災害、土砂災害対策等について調査を行いました。写真は長崎県からのヒアリング。

仙台を石炭の都にするな



仙台港に相次いで石炭火力発電所建設計画が進められ、特に関西電力の子会社などが設置する計画の仙台パワーステーションは住民説明会を避け続けるなど企業モラルにも欠ける姿勢が顕著でした。そのような中で市民団体が5月30日「仙台を石炭の都にするな」との署名22,000筆を県に提出、私も同席しました。県では河端章好副知事が対応しました。

参考人意見聴取



私が委員長を務める県議会地域防災調査特別委員会は4月20日に参考人意見聴取を行いました。防災全体の課題を政策研究大学院大学防災・危機管理コースディレクター武田文男教授、地域での自主的な防災活動を福住町内会菅原会長、東日本大震災を経験した障害当事者の立場から櫻井理さんにそれぞれお話をお聞きしました。

文化財をスキャン



東北最古の仏像として県指定文化財になっている十八夜観世音堂(太白区長町1丁目)御本尊「勢至観音像」を東北工大のライフデザイン学部菊地良覚学部長、同中島敏教授がスキャンを行ってデータ取得作業を行いました。同像はセキュリティの関係から仙台市博物館に保管されており、常時設置用のレプリカが作れないか私が県と相談し、東北工大の協力を得ることになったものです。

八木山の町内会から要望



内会役員の方と一緒に要望しました。

仙台市営地下鉄東西線の一方の始発駅である動物公園駅前の交通問題について八木山本町一丁目町内会から相談を受け、5月15日に県警本部の担当者に町

用水路の浚渫



下旬になって浚渫が行われました。写真は依頼主の農家の方と県場を確認しているところです。

秋保町国久地区の用水路に県森林公社が管理する山から土砂が流れ込んで堆積している問題で仙台市に用水路の浚渫を要請していましたが、3月

建設企業委員会で県内の調査



た。工事の影響を最小限に抑えるなど課題が残っています。

5月29日に県議会建設企業委員会で県内調査を行い、とくに環境に配慮した公共工事の現状について確認しました。最初に訪れた蒲生干潟で県は堤防を最大80メートル陸側に移動させることとし、のり面は底生生物の堤防裏との往来に配慮する構造としまし

旧笹川排水訓練



し、その一環として今回の排水訓練が実施されました。

一昨年9月の関東東北豪雨で床上浸水の被害が出た旧笹川の名取川合流点付近で6月2日旧笹川から名取川に排水する訓練が行われました。国土交通省の排水ポンプ車が配置され、近隣住民が立ち会う中で排水が行われました。国、県、仙台市間の通報訓練実施を私が提案